

情報処理技術者試験の見直しについて（検討案）

2026年1月時点の検討状況

試験概要

- 情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき、デジタル人材の能力が一定以上の水準であることを認定する国家試験。
- 情報システムを構築・運用する「技術者」から、利用する「エンドユーザー」まで、幅広いデジタル人材を対象に、デジタルに関する知識・技能を客観的に評価し、人材育成・確保に貢献。



※国内最大級の国家試験として、2024年度は、年74万人応募、合格者25万人。

※情報処理安全確保支援士試験は、再編対象外。情報処理技術者試験において、高度試験区分は、ITストラテジスト試験、システムアーキテクト試験、プロジェクトマネージャ試験、ネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、エンベッドシステムスペシャリスト試験、ITサービスマネージャ試験、システム監査技術者試験の計8区分。

※パソコンを利用して実施するCBT (Computer Based Testing) 方式に、全試験区分が2026年度より移行予定。

※試験の詳細は独立行政法人情報処理推進機構のホームページを参照：<https://www.ipa.go.jp/shiken/about/gaiyou.html>

試験見直しの背景

- DXの推進に必要となるデータ活用やデジタル技術は進化しており、これに対応するスキルも変化。この変化に柔軟に対応するためには、「土台」となる幅広いスキルを身につけることが必要。
- このため、**情報処理技術者試験**は、スキルの変化に柔軟に対応するため、幅広いスキルを身につけ、スキルベースで評価するための**試験体系に見直しを検討**。**2027年度開始を目指す**。

見直しのポイント（案）

データマネジメント試験（仮称）新設

AIを活用するためには、データを活用可能な状態に整備・管理する必要があり、このスキルを習得し、評価するための新たな試験を創設。

応用情報・高度試験

再編

「土台」となる幅広いスキルを身につけるため、応用情報技術者試験と高度試験をマネジメント・監査、データ・AI、システムの3領域に大括り化し、3試験に再編。3領域の習得を推奨。

試験の見直しイメージ（検討案）

情報処理安全確保支援士試験

情報処理技術者試験

ビジネス

エンジニアリング

データマネジメント試験（仮称）

情報セキュリティマネジメント試験

論述試験
(2028年度以降に
向け検討中)

プロフェッショナルデジタル
スキル試験（仮称）

マネジメント・監査領域

データ・AI領域

システム領域

基本情報技術者試験

3領域の習得を推奨

ITパスポート試験

リテラシー

【説明会の開催】

当該試験を活用している法人を対象に、見直し内容についてのオンライン説明会を2月と4月の計2回開催します。それぞれ、開催日時点における検討状況の説明となります。

このため、4月開催の方が詳細な内容になる見込みです。お忙しい場合には4月の回にご参加ください。

第1回：2月26日（木）13:30～14:30

第2回：4月23日（木）13:30～14:30

申し込みアドレス：<https://mm-enquete-cnt.meti.go.jp/form/pub/syomu-riyousokushin/nsmg3rtz2w47>

<お問い合わせ先>

【試験制度について】

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課 デジタル人材政策室

お問い合わせアドレス：bzl-digiskills-inquiry@meti.go.jp

【試験実施について】

独立行政法人情報処理推進機構 デジタル人材センター 人材スキルアセスメント部

お問い合わせフォーム：<https://info.ipa.go.jp/form/pub/inquire/itee>

ITパスポート試験

最適化

全ての人が変化を敏感に捉えられるようにDXのマインド・スタンス、データマネジメントの基礎に関する出題追加、AI時代に対応した倫理の出題強化など。

試験実施方法

変更

応用情報・高度試験は、見直し後の試験をCBT方式に適した出題方式へ見直し。論述試験のあり方は、2028年度以降に向けて継続検討。